イメージを捉えること,即興的に表現すること,ひとまとまりの作品を創ること,作品を観ることがつながる授業の検討

学籍番号　　1855001
氏　　名　川上　妃奈子

指導教員（主）　三木　ひろみ
（副）　柴田　一浩

キーワード：創作ダンス，中学校，教材

【研究の背景・問題の所在】

2008 年の学習指導要領の改訂により中学校第 1 学年及び第 2 学年において男女ともにダンスが必修となることが示された(文部科学省,2008). ダンス領域は，ア)創作ダンス，イ)フォークダンス，ウ)現代的なリズムのダンスの 3 つで構成されている．創作ダンスは,「テーマからイメージを捉えて動きで表現すること」「即興的に表現すること」「簡単な作品にまとめること」が学習内容にある(文部科学省,2008).

中村（2013）は,ダンス教育の今後の課題を明らかにすることを目的として,中学校のダンス授業計画について縦断的調査を行ない,多くの教員は,ダンス種目の中でも創作ダンスの教育価値が高いことは認めているが,「生徒が好まない」「指導が難しい」として敬遠していると述べている.

中村･浦井(2006)は，創作ダンス及び現代的なリズムの学習内容と楽しさの関係を検討することを目的として高校生を対象に質問紙調査を行った.その結果,踊ること,創ること,観ることの 3 要素で構成されている創作ダンスでは,生徒は創ることに難しさを感じているが,自由に創造的に表現する楽しさ,仲間との協力や交流,発表での共感や達成感などを感じられるため,技能だけでなく態度や学び方の学習の成果も得られること,教師が既成の踊り方を教える現代的なリズムのダンスの楽しさは,ほとんどがリズムに乗って踊る楽しさであり,創ること,観ることの学習からは楽しさや学習成果が得難いとの結論を述べている,

成瀬(2013）は,踊る・創る・見るの 3 つの活動を含めたリズムダンスの授業を小学校 5 年生を対象に実施し,「リズムダンスの踊る活動が創る活動につながる授業が課題である.」と述べている.

【課題】

先行研究について検討した結果,創作ダンスには,創造的に表現する楽しさ,仲間との協力や交流,発表での共感や達成感などの技能以外の学習成果が得られる教育的価値の高い種目であるが，ダンスを創ることが難しく,選択されにくくなっていることが分かった．リズムダンスの授業に関する提案を参照して,創作ダンスでも,創造的に表現することがダンスを創る活動につながる授業ができれば,ダンスを創る難しさを解決できるのではないかと考える.

中学校第 1 学年及び第 2 学年の創作ダンス「中学校学習指導要領解説保健体育編」(文部科学省,2017)によると，中学校第 1 学年及び第 2 学年の創作ダンスの技能のねらいについて「創作ダンスは,多様なテーマから表したいイメージを捉え,動きに変化をつけて即興的に表現することや,変化のあるひとまとまりの表現ができるようにする

ことをねらいとしている」と記述されている．すなわち,中学校の創作ダンスの学習では,生徒が難しいと感じているダンスを創ることの前に,「多様なテーマから表したいイメージを捉える」こと,「(そのイメージを)動きに変化をつけて即興的に表現すること」があり,「表したいイメージを変化と起伏(盛り上がり)のあるひとまとまり動き(「はじめ-なか-おわり」の構成を工夫した動き)で表現して踊ることで作品を創ることができると言える．したがって,創造的に表現することがダンスを創る活動につながる授業を行うには,イメージを捉えること,イメージを即興的に表現すること,表したいイメージを「はじめ-なか-おわり」の構成で表現するダンス作品を創ること,作品を観ることによってより良いダンス作品を創作していくことがつながる創作ダンスの授業を行う必要があると考えた.

【目的】

本研究は,創作ダンスの学習に必要な,イメージを捉える,イメージを即興的に表現する,表したいイメージを「はじめーなかーおわり」の構成で表現するダンス作品を創る,作品を観ることがつながる授業づくりを検討することを目的とした.

本研究は, 大学生を対象とし,動きを自由に創造できるようにするための教材の効果を検証する研究 1 と,中学校 2 年生を対象に授業実践を行う研究 2 で構成されている.以下,研究 1,2 それぞれについて,方法と結果・考察を述べる.

【方法：研究 1】

(1) 調査期間と調査対象者

平成 30 年 5 月 30 日から 6 月 27 日の期間,本学の体育授業理論実習 I の受講生 35 名を対象とした.

(2)教材

重力や重心を上手く使って,相手に寄り掛かったり,持ち上げたり,接触し続けながら即興的に踊る「コンタクト・インプロヴィゼーション」(ノヴァック，2000)を参考にして，割り箸を使って-感じあって動く」(佐分利，2009）など,パートナーと割り箸の先や体の一部が離れないように接触したままで動き続ける教材を「即興的に表現するための教材」として取り入れた.

(3)データの収集

1 回目の授業と 5 回目の授業後に質問紙調査を行い,ダンスに対する態度,他者の交流に対する態度を 5 段階で回答させた.毎回の授業で行った教材の楽しさと難易度について 5 段階で評価させた.役に立った教材・活動及び改善点について自由記述させた.

【結果及び考察：研究 1】

表 1　教材の楽しさ・難しさの評価

教材	楽しさ	難しさ
教材 5:相手のリズムや歩幅を感じて共に合わせられるように動く	3.3	2.7
教材 6:接している体の一部から互いのリズムを感じて，互いにとっていいリズムで動く	3.3	2.8
教材 7:物を介して相手の動きを感じ，互いがスムーズに動き続けられるように動く	3.6	3.5
教材 8:相手と接して相手の動きを感じながら相手に合わせて動く	3.2	2.8

表 1 は,教材 5~8 の楽しさ,難しさの評価の平均値を示している.研究 1 で考案した教材は,難しいと評価された教材も楽しい教材として受け止められていた.大学生の自由記述から,ダンス作品を創作する際に役に立ったこととして,様々なダンス動画を見ることや日常生活など普段の生活から動きを見つけ,生かすことが挙げられ, 考案した教材は,即興的な動きの学習には効果があったものの,作品創りにつなげられなかった.

【方法：研究 2】

(1) 調査期間・調査対象者と授業者

令和元年 10 月 28 日から 12 月 5 日の期間で,調査対象者は,茨城県 R 市の公立中学校の 2 年生 3 クラス(男子 40 名,女子 38 名)である.

(2) 単元計画

表 2 は本研究で作成した単元計画である.調査対象者の体育授業を担当している保健体育教諭の監督の下,本研究者が 6 単位時間の授業を行った.

表 2 単元計画

<table>
<tr><td>時間</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr>
<tr><td>目標</td><td>冬の映像や写真をみて，自分の表したいイメージを捉え，そのイメージを即興的に表現したり，変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ろう.</td><td>ペーパーワークを使って動きに変化をつけて即興的に表現したり，変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ろう.</td><td>体の一部を使って音を出したり動きで音を即興的に表現したり，変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ろう.</td><td>冬のテーマのダンスを発表・鑑賞しよう．四季から自由にテーマを選んで創作しよう.</td><td>四季のダンスの発表し，他のグループの作品とのつなぎ方を工夫して四季の変化を表現しよう</td><td>四季の変化を表現するクラス作品の発表会をしよう.</td></tr>
<tr><td>導入</td><td colspan="6">挨拶・本時の学習の流れの確認</td></tr>
<tr><td rowspan="6">展開</td><td colspan="3">単元前半</td><td colspan="3">単元後半</td></tr>
<tr><td>(1)アイスブレイクの教材</td><td rowspan="3">(4)ペーパーワークの教材</td><td>(5)オノマトペダンスの教材</td><td>冬のテーマのダンスを発表・鑑賞（兄弟グループ）</td><td>四季のダンスの発表</td><td>5時間目で撮った1本通しの映像視聴</td></tr>
<tr><td>(2)冬のイメージ映像の教材</td><td rowspan="2">(6)体の一部を使って，リズムや音を表現する教材</td><td>兄弟グループの冬の作品を評価</td><td>各グループの作品評価</td><td>リハーサル</td></tr>
<tr><td>(3)ポーズで「はじめ－なか－おわり」の教材</td><td>自分たちで四季のテーマを決めて作品を創る</td><td>他のグループの作品とのつなぎ方を工夫して四季の変化を表現</td><td>四季のクラス作品発表会</td></tr>
<tr><td colspan="3">作品創り</td><td rowspan="2">タブレットで撮影し自分たちの作品を鑑賞</td><td rowspan="2">全体で作品を1本通し，タブレットで撮影</td><td>スクリーンにて作品視聴</td></tr>
<tr><td colspan="3">タブレット撮影し，自分たちの作品を鑑賞</td><td>クラス作品評価</td></tr>
<tr><td>まとめ</td><td colspan="6">授業のまとめ・挨拶</td></tr>
</table>

イメージを捉え,即興的に表現し,はじめ - なか - おわりのひとまとまりの動きでダンス作品を創作するという,創作ダンスの学習過程を 1 時間の授業の中で全て行い,単元前半の 1 回目から 3 回目の授業まで冬をテーマとしてダンス作品を創作する基礎的学習を繰り返した後，4 回目の授業で作品を発表し,次に四季の中から生徒が自由にテーマを選び,5,6 回目の授業では生徒が自主的にダンス作品の創作を行った.

(3)教材

1)氷鬼(アイスブレイクの教材)，2)冬のイメージ映像(イメージを捉える教材)，3)ポーズではじめ - なか - おわり(ひとまとまりの動きで作品を創る教材),4)ペーパーワーク(即興的に表現する教材)，5)オノマトペダンス(即興的に表現する教材) 6)体の一部を使いリズムや音を表現する(即興的に表現する教材),以上 6 つの教材を使用した.

(4)データ収集

毎回の授業後に,ダンス授業評価票で生徒に授業を評価させた．ダンス作品を創作する際に，生徒がグループで話し合い，ワークシートに記入したはじめ - なか - おわりの構成についての記述を分析した．冬のダンスの作品と四季のダンスの作品のパフォーマンスをダンス・コーチング専門の大学教員に評価してもらった．本授業実践終了後に，間近で観察していた当該校の保健体育教諭にインタビューを行った.

【結果及び考察】

1) ダンス授業評価票

4 回目の評価と 6 回目の評価を比較すると,全ての項目の評価が向上していた．生徒は単元後半の自主的な学習活動を通じてさらに学習成果を向上させたこと,単元前半で向上しなかった項目についても単元前半に学習成果をあげることができたと言える.

表 3 授業評価

質問	1 回目	4 回目	6 回目
1. 楽しかった	2.53	2.43	2.70
2. 恥ずかしがらずに取り組めた	2.43	2.60	2.67
3. 積極的に意見を出せた	2.43	2.57	2.60
4. 友達の意見を取り入れられた	2.80	2.63	2.80
5. 動きやイメージを見つけられた	2.63	2.63	2.73
6. 人に伝わる表現ができた	2.33	2.47	2.63
7. イメージを伝えられることが分かった	2.70	2.60	2.70
8. 表現の良し悪しが分かった	2.57	2.63	2.67
9. 皆で作品を創れた	2.43	2.53	2.73
10. 個性を生かそうとした	2.47	2.50	2.70
11. 前の授業で学んだことを生かせた	2.07	2.37	2.47

2)創作ダンス作品の評価

ペーパーワークの教材及びオノマトペダ

ンスの教材は,少なからず作品創りに影響を与えたと言えるが，その効果は十分とは言えず,教材を導入した2回目及び3回目の授業だけでなく，その後も作品を創る時や作品の練習をしている時に紙を持ったり，音の表現を入れるよう促すなど，より多くの時間を割いて学習指導する必要があると言える.

3)グループワークシートの評価

1時間目に使用した,ワークシート1に書き出されたイメージの言葉の種類を集計し平均値を算出した結果，平均値は10.1(最小6,最大18)であった．このことから，映像視聴の後のブレインストーミングによって各グループで多様なイメージを捉えることができていたと言える.

ペーパーワークを行った2回目の授業のワークシート2には，紙の使い方,動かし方についての記述がほとんど書かれておらず,ペーパーワークの教材を用いて表現された動きは「はじめーなかーおわりの変化のあるひとまとまりの動き」で作品を創ることに活かされなかったと考えられる.

体の一部を使って音を出すオノマトペダンスの教材を行なった3回目の授業のワークシート 3 では,半数以上のグループが,体の一部を使って音を出したり動きで音やリズムを表現する記述をしていたことから,オノマトペダンスの教材で学んだ表現は「はじめ-なか-おわりの変化のあるひとまとまりの動き」で作品を創ることにある程度生かされたと言える.

【結論】

本研究で,イメージを捉える,イメージを即興的に表現する,表したいイメージを「はじめ-なか-おわり」の構成で表現するダンス作品を創る,作品を観る,といった一連の学習がつながる授業づくりを目指して,教材を考案し単元計画を立てた.いずれの教材も学習者に肯定的に受け止められ,イメージを即興的に表現する教材によって,即興的に創造的な動きを引き出すことはできたが,ダンス作品を創作する活動やダンス作品のパフォーマンスに及ぼした影響はわずかであった.ダンス単元の最初から「はじめ-なか-おわりの変化のあるひとまとまりの動き」として作品を創ることを繰り返し学習したことは,ダンス作品を創作する活動やダンス作品のパフォーマンスに反映され有効であった.また,最初から「はじめ - なか - おわりの変化のあるひとまとまりの動き」として作品を創ることを繰り返す単元前半の基礎基本の学習によって,単元後半には生徒は自主的にダンスを創作することができるようになった．本研究では,一般的な創作ダンスの単元との比較を行っていないため,効果や課題の有意性は実証できないが,「はじめ-なか-おわりの変化のあるひとまとまりの動き」として作品を創ることを繰り返す単元前半の基礎基本の学習と単元後半の生徒の自主的な学習活動で単元を構成することは変更せず,本研究で用いた教材の改善や教材の活用の仕方を改善すること,あるいは新たな教材について検討する必要があると考える.

【参考文献】

1)松本富子(2003)ダンス(表現運動)授業を評価する．高橋健夫編著「体育授業を観察評価する 授業改善のためのオーセンティックアセスメント」．明和出版．Pp. 20-23.

2)文部科学省(2017)中学校学習指導要領解説保健体育編，東山書房